



江差町ゼロカーボンシティ宣言

～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～

江差町は、^{にしん}鮭漁と北前船の交易により発展した「歴史」、かもめ島を象徴とする「自然」、長い年月に育まれ、脈々と受け継がれてきた江差追分や姥神大神宮渡御祭などの「文化」といった、誇るべき遺産が数多く残されており日本遺産にも認定されています。

近年、地球温暖化を起因とする気候変動の影響により、世界各地で猛暑や大雨、大規模干ばつ等の異常気象が多発しており、江差町においても産業や生活環境などへの影響が危惧され、その対策は喫緊の課題となっています。

2015年に合意されたパリ協定では2020年以降の温室効果ガス排出削減のための国際的な枠組みが規定され、2021年11月に開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)では平均気温上昇1.5℃に抑える目標に向かって努力することが正式に合意されており、この目標を達成するための取組が世界全体で加速しています。

日本国内においては2020年10月に、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする(2050年カーボンニュートラル)、脱炭素社会の実現を目指す」ことが国会で宣言されました。

このような中、江差町では、2020年(令和2年)に第6次江差町総合計画において、SDGsと調和を図りながら目指すまちの姿として、「誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくりエエ町、江差」を掲げており、2023年(令和5年)3月に「江差町地域再エネ導入マスタープラン」を策定し、本町の地域脱炭素実現への指針を定めました。

2024年(令和6年)3月には、自然環境の調和と適切な事業推進を目指した風力や太陽光といった再生可能エネルギーのゾーニングを設定することとしており、省エネルギー対策の推進と森林整備をはじめとした二酸化炭素吸収源の確保、本町の地域資源である再生可能エネルギーの活用を促進しながら、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。

ここに、町民、事業者、行政が一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言します。

令和5年6月1日

江差町長

照井 善之介